

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は①だけで、2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は45分で、終わりは午前10時15分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 解答はすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから、新しい解答を書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立小石川中等教育学校

文章1

或る雨の日に、私は母に用事を言われ、近所まで届けるものに行き、一人の少年と出逢った。

醤油工場の軒下に、私と同じ歳くらいの少年が妹らしき少女と二人で立っているのを見かけた。少年は雨雲を見上げてしかめっ面をしていた。どうやら雨宿りをしているようだった。届けものをしての帰り道、工場の前を通りかかると、二人はまだそこにいた。

「こんな雨くらい濡れたって平気なのにな。家まで駆けて帰ればいいのに……。」

と私は思った。

その時、少女が私の顔をじつと見て、急に泣き出した。

私は自分が何か悪いことをしたのだろうか、とびっくりした。少年が彼女の肩に手を置き、なにごとかをささやいたが、妹はただをこねるように身体をよじらせ泣き続けた。

「ねえ、どこまで行くの？」

私が声をかけると、少年が私の家からさらに海寄りの町の名前を口にした。

「僕もそっちだから傘に入っていきなよ。」

「本当に？ ありがとう。」

(右下へ→)

少年はかすかに笑い、妹と傘の中に入ってきた。歩き出すと少年の方はちっとも傘の中に入らず、妹を守るようにしていた。

「君が濡れてしまうよ。」

私が傘を少年の方へずらすと、

「俺はいいんだ。妹は少し身体が弱いから。」

と笑って答えた。

「そうか、妹さんの身体の具合が悪かったのか……。」
私は、二人が素足にサンダル履きで雨の泥のはねで汚れているのに気付き、なんだか長靴を履いている自分が情なく思えた。私と少年の間にはさまれて、少女は黙って歩いてしたが、途中、径の前方に一匹の蛙が跳ねているのを見つけて、大声で指さし、蛙が草むらに消えたのを見守り、嬉しそうに少年を見上げた。そうして私を見つめた少女の瞳はとても澄んでいた。私は美しい瞳に見つめられて、頬が熱くなった。

家の前に出ていた母が、私たちを見つけ、母は傘を兄妹に渡し、二人は雨の中を海の方にむかって歩いて行った。途中、少年は何度も振りむき、頭を下げた。

「あの女の子は身体が弱いんだって。」

私が母に言うのと、

「良いことをしましたね。」

と母が珍しく私を誉めた。

(伊集院 静 「長靴の音色」による)

人は自分の鏡である。ひとりで自分のことをいくら考え
ていても、それは自分のほんとうの姿ではない。よきにつ
け、あしきにつけ、自分で造りあげた空想上の影みたいなも
ので、何かにぶつかってはじめてそれは露になる。必ずしも
相手が人間でなくてもよい。動物でも植物でも、料理でもフ
ァッションでも、はたまた目に見えぬ空気や風の音でも、世
の中のありとあらゆるものを、もし望めば他者と見なすこ
とはできる。早い話が私の場合、こうして原稿用紙に向っ
ていて、「自分と出会う」ことについて、いくらでも書けると
思っているのにも拘らず、うまく表現できないで四苦八苦
している。それほど心の中で思っていることと、実際に事に
当るのとは違うのである。それに比べたら多くの人間とふ
れあう機会を持つ人々は、その度ごとに自分自身を新たに
見直すことができるはずで、自分を失うどころか、豊かにす
る可能性に恵まれているのではなからうか。

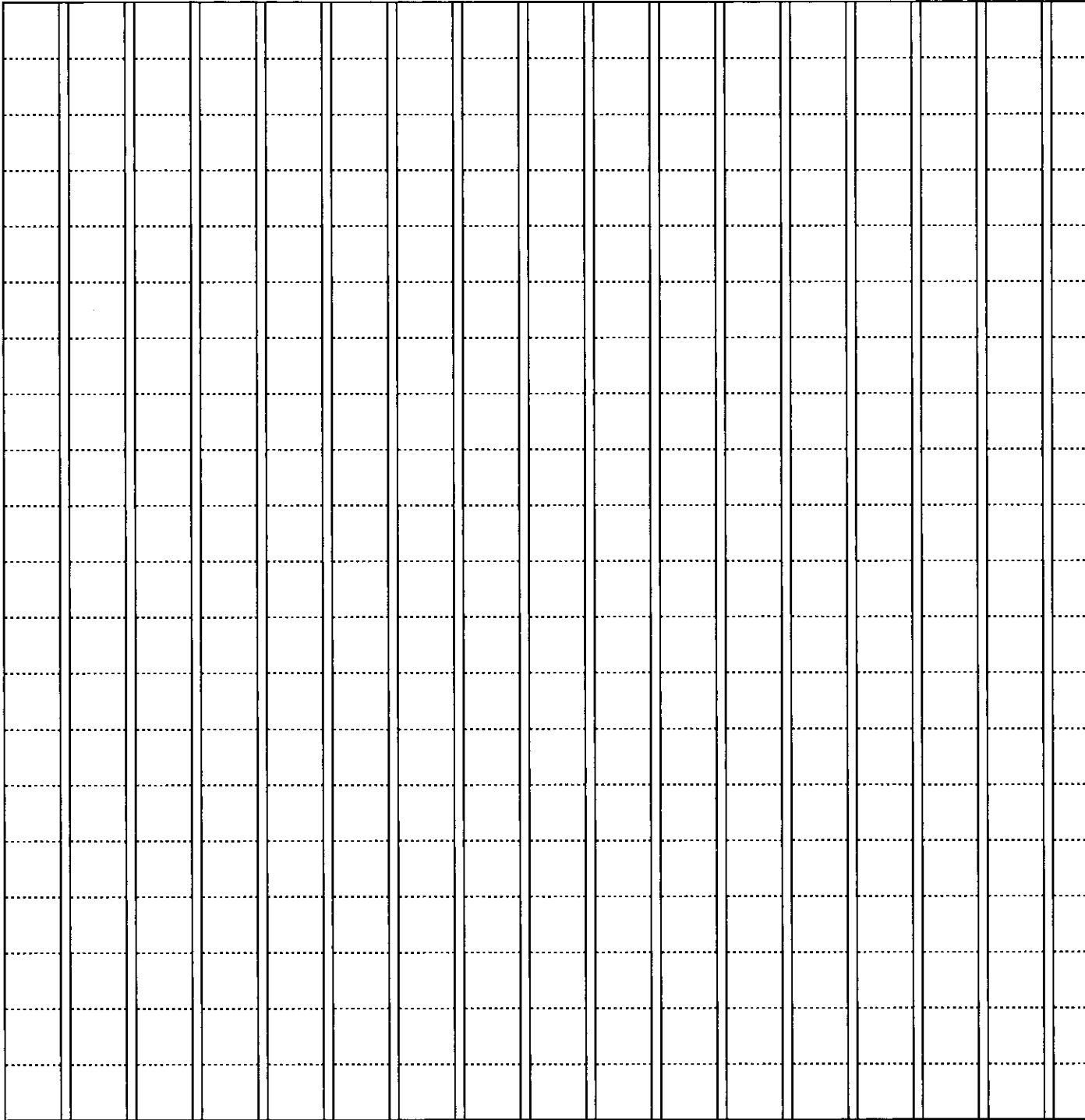
(白洲 正子 「人は鏡」による)

〔問題1〕 文章1の「私」が雨の日に経験したことは、文章2で筆者が述べているどんな内容に当たりますか。

それをまとめて、三十字以上、四十字以内で書きなさい。「、」や「。」もそれぞれ字数に数えます。

〔問題2〕 〔問題1〕でまとめたことについて、あなた自身が見聞きしたことや体験したことや例をあげながら、

あなたの考えを五百字程度で書きなさい。なお、段落をかえたときの残りのます目は字数として数えます。「、」や「。」もそれぞれ字数に数えます。



500

400

300